

東欧屈指の名門チェコ・フィルと
日本が世界に誇るヴァイオリニスト榎本大進の共演!!

(ベルリン・フィル 第1コンサートマスター)

セミヨン・ビシュコフ指揮

チェコ・フィルハーモニー 管弦楽団

ヴァイオリン

榎本大進

Philharmonic

雄大!スメタナがみた望郷の響き

スメタナ:

連作交響詩「我が祖国」より「モルダウ」

熱狂!湧き上がる情熱と躍動の旋律

チャイコフスキー:

ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35

魂の叫び。チャイコフスキー最期の交響曲

チャイコフスキー:

交響曲 第6番 口短調 「悲愴」 op.74

© Kenta Onda
(Dance World/MAC)

2019

10.27(日) 14:00開演 (13:00開場) ザ・シンフォニーホール

S席 19,000円 A席 16,000円 B席 13,000円

C席 10,000円 プレミアム 24,000円(税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

ご予約・
お問い合わせ

ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333(10:00~18:00 火曜休)

<http://www.symphonyhall.jp>

2019年3月24日(日)10:00~ [Sinfonia会員先行 3月21日(木・祝)10:00~]

プレイガイド

■チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード:143-820) ■e+ (イープラス) <http://eplus.jp/symphonyhall/>(パノコン・提携)

■ローソンチケット 0570-084-005(Lコード:51824) 0570-000-407(オペレーター対応 10:00~20:00)

*未成年のご入場は御遠慮いただいております。*中絶を得ない事情により、出演者、会日、曲順が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

主催:ザ・シンフォニーホール

Czech Philharmonic

Czech Republic
Land of Stories

セミヨン・ビシュコフ指揮 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

ヴァイオリン 榎本大進

東欧のオーケストラの最高峰、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団が2年ぶりにザ・シンフォニーホールを訪れる。チェコが生んだ19世紀最大の作曲家スメタナと、同じ時代をロシアで生きたチャイコフスキーによるプログラムを、ロシア出身セミヨン・ビシュコフが指揮。スメタナが祖国への思いを鮮烈に吐露した《交響詩「わが祖国」》からは、最も有名な「モルダウ」を取り上げる。そしてビシュコフの十八番、チャイコフスキー！名曲（ヴァイオリン協奏曲）では、ベルリン・フィルのコンサートマスターで活躍するなど、世界が認める榎本大進の渾身の名演に期待だ。チャイコフスキーの作曲家最後の傑作《交響曲 第6番「悲愴」》も加わり、圧巻のステージが繰り広げられるだろう。

二人の作曲家の胸に秘めた望郷への想いを、ビシュコフ&チェコ・フィルは味わい深く聴かせてくれるに違いない！

文 道下京子

セミヨン・ビシュコフ [音楽監督・首席指揮者]

Semyon Bychkov, Music Director/Chief Conductor

1952年サンクトペテルブルク生まれ。イリヤ・ムーシンに師事。20歳でラフマニノフ指揮者コンクール優勝。89年サンクトペテルブルク・フィルの首席客演指揮者、そしてパリ管弦楽団の音楽監督に、97年には、ケルン放送交響楽団の首席指揮者に、98年には、ドレスデン国立歌劇場の首席指揮者に就任。2018年10月、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者・音楽監督としての任期をスタートさせた。

これまでに、ミラノ・スカラ座、パリ国立オペラ、ドレスデン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場他世界のあらゆる主要歌劇場に登場。2018年ウィーン国立歌劇場とバイロイト音楽祭でワーグナーの「パルジファル」を指揮。またウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ロンドン響、ミュンヘン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ニューヨーク・フィル、シカゴ響、フィラデルフィア管、クリーブランド管などと共演を重ねている。

2016年以降、英デッカによるチェコ・フィルとの「チャイコフスキー・プロジェクト」が進行中。2015年、インターナショナル・オペラ・アワードの「年間最優秀指揮者」に選出。



榎本大進 [ヴァイオリン] Daishin Kashimoto, Violin

フリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーなど、5つの権威ある国際コンクールで優勝。ソリストとしてマゼール、小澤征爾、ヤンソンス、ラトル、P.ヤルヴィなど著名指揮者のもと、ベルリン・フィルを含む国内外のオーケストラと共演。力を注ぐ室内楽では、クレメール、パシュメット、アルグリッチ、堤剛など世界有数のソリストとも共演し、2007年から毎年開催している室内楽音楽祭「ル・ボン国際音楽祭～赤穂・姫路」を音楽監督として率いている。主なCDに、ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集（ワーナー・クラシックス）など。現在、2010年に正式就任したベルリン・フィル第1コンサートマスターの任にある。

これまで日本で恵藤久美子、ニューヨークで田中直子、ドイツでザハール・ブロン、ライナー・クスマウルに師事。1995年アリオン音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー2011クリエイター部門、ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞を受賞。使用楽器は1674年製アンドレア・グウルネリ。



チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 Czech Philharmonic

音楽大国チェコが世界に誇るオーケストラ。1896年創立。デビュー公演はドヴォルザークが指揮。1908年マーラーの交響曲第7番を、作曲家自身の指揮により初演。その後歴代のチェコ人名指揮者たちターリヒ（1929年ターリヒ指揮による初のレコーディング：スメタナ「わが祖国」を行う）、クーベリック、アンチェル、ノイマン等一の薫陶によってチェコ・フィルはチェコが世界に誇るオーケストラとしてその名を確たるものとした。

1990年、ピエロフラヴェクが首席指揮者に就任。続いてそのポストはアルブレヒト、アシュケナージ、マーカル、インバルに引き継がれ、2013年にはピエロフラヴェクが再び首席指揮者として再び迎え入れ、その数々の名演は世界の注目を集め、チェコ・フィルのかつての黄金時代を同様の高い水準を回復させた。

2018年10月より、セミヨン・ビシュコフが音楽監督・首席指揮者に就任。伝統と革新の融合したチェコ・フィルとの新たな黄金時代を歩んでいる。

